

《無菌性髄膜炎》

★ 無菌性髄膜炎とは？

髄膜炎とは細菌やウイルスが脳や脊髄のまわりに流れている脳脊髄液の中に入り込み炎症を起こしたものです。細菌によって起こる『細菌性髄膜炎』に対してウイルスなどによって起こるものを『無菌性髄膜炎』といいます。無菌性髄膜炎を起こすウイルスには、エンテロウイルス、ムンプス（おたふくかぜ）ウイルスなどがありますが、いわゆる『夏かぜ』の原因となるウイルスが多いので、5～10月に流行することが多いのです。年齢的には幼児・学童が多く、乳児・成人はまれです。

★ 症状

発熱・頭痛・嘔吐が3大症状ですが、乳児、幼児では頭痛を訴えることは難しくなります。項部硬直（首が硬くなり動かすと痛い）、腹痛、筋肉痛なども出現します。いずれの症状も軽い場合もあります。

★ 診断

症状、項部硬直、周囲の流行状況からある程度診断できますが、確定診断は腰椎穿刺（背中から針をさして髄液を取る）をして髄液中の細胞数が増加していることを確認することです。血液検査だけではわかりません。

★ 後遺症

後遺症を残すことはまずないといわれています。

★ 治療及び看護

ウイルスに効く薬がありませんから、対症療法として解熱鎮痛剤、鎮静剤、鎮吐剤などを使用します。診断が確定すれば入院による安静が第一です。症状は約1週間で消失しますが、髄液の異常が正常になるには1～4週間かかります。食事は吐き気がある間は無理に与えず、水分補給とします。急性期には点滴が必要となります。

